

福島第一原子力発電所 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果

( データ集約 : 7/24 )

採取場所	造粒固化体貯蔵排気設備 (排気出口側)		プロセス主建屋開口部 (除染装置室内)		3号機廃棄物処理建屋 (西側開口部)		告示濃度限度* ( Bq/cm <sup>3</sup> )
試料採取日時刻	2017年7月19日 10:42 ~ 10:52		2017年7月19日 10:28 ~ 11:28		2017年7月10日 07:45 ~ 08:45		
検出核種 (半減期)	試料濃度 ( Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	試料濃度 ( Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	試料濃度 ( Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	ND	-	3.1E-06	0.00	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	ND	-	1.7E-05	0.01	ND	-	3E-03

\* 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度

( 別表第2 第四欄 : 放射線業務従事者の呼吸する空气中の濃度限度 )

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

. E - とは、. × 1 0<sup>-</sup> と同じ意味である。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を 1 と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性の I-131 が約 3E-6 Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134 が約 4E-6 Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137 が約 4E-6 Bq/cm<sup>3</sup>

粒子状の I-131 が約 1E-6 Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134 が約 1E-6 Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137 が約 1E-6 Bq/cm<sup>3</sup>

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。